

はじめに

平素より、本学の教育活動にご理解とご協力をありがとうございます。

ここに、2020年度版『鳥取大学地域学部国際地域文化コース地域調査プロジェクト 成果報告書』をお届けいたします。本報告書は、国際地域文化コース2年生が通年の必修科目「地域調査プロジェクト」で実施した調査研究の成果を記したものです。2020年度は、周知のように新型コロナウイルスの感染拡大により、授業も日常生活も何もかもがこれまでとは違った形で取り組むものとなりました。「地域調査プロジェクト」は、本コースの授業科目の中でも、その性格上、大学の講義室の中だけでの学びに終始するものではなく、学外に飛び出し、地域でのフィールドワークや地域の方々との交流や議論を通じて学ぶ科目です。しかし2020年度は、現地へ出かけるフィールドワークや、地域の方との交流、学生間のディスカッションが自由闊達には行えない状況下での学習となりました。誰もが初めて体験するコロナ禍という未曾有の事態の中で、各グループの担当教員と学生が協力し合いながら紡ぎ出した成果が本報告書です。

今年度の4グループによる調査研究について以下、簡単にご紹介します。

1. 地域博物館におけるデジタルアーカイブ実態調査：「考古学」グループでは、博物館等における展示のデジタル化、収蔵資料のデジタル化に関する実態調査を、全国1,701施設についてそのウェブサイトにより調査しています。具体的な調査結果を示しながら、デジタルアーカイブ化の進捗と課題を検討したものです。
2. 澤田美喜とエリザベス・サンダース・ホームローカルとグローバルな軌跡を辿る－：「国際交流」グループは、占領期に外国の兵士と日本人女性との間に生まれた「混血孤児」を保護し我が子同然に育てた「澤田美喜」に着目し、特にホーム出身者の卒業後の生活について、文献調査、映像資料分析、県外関係者によるオンライン講義などを駆使して調査しました。ホーム出身者や関係者により築き上げられた人と人との繋がりが、今なおローカルとグローバルな広がりの中で生き続けていることを明らかにしています。
3. 鳥取の手仕事の現在－柳宗悦が生んだ民藝の広がり－：「手仕事」グループでは、鳥取の手仕事について、民藝運動を率いた柳宗悦やその思想に関係する人々への理解、吉田璋也による鳥取の民藝運動の歴史と展開についての理解を糸口にしながら、民藝美術館・工房訪問、工芸家へのインタビューなどを踏まえて、鳥取における手仕事の現在について検討したものです。
4. 『吉岡の日記』を読む－鹿野へのお出かけに注目して－：「旅日記」グループの調査は、6代鳥取藩主・池田治道の娘である姫様姉妹が、吉岡温泉へ湯治に向かう道中での様子や当地での出来事を記した鷺見休明著『吉岡の日記』を読み進めたものです。翻刻作業を通じて文書をより正確に理解し、記述された場所や事物を仔細に確認しながら、姫君の旅の目的を解き明かしていきます。

2020年度は、残念ながらこれらの成果を発表会として公開する機会を持つことができませんでしたが、報告書は例年に劣らず充実した内容になったと思います。2020年度も「助成会」、「尚徳会」の皆様の資金面での支援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。最後になりましたが、様々な形で地域内外の関係者の方々に、ご助言、ご指導いただきましたこと、改めて深く感謝申し上げます。

2021年5月27日

鳥取大学地域学部地域学科国際地域文化コース コース長 五 島 朋 子